

市原市認知症対策連絡協議会 第18回定例会

- 日時：平成31年1月17日(木) 18:30~21:00
場所：市原市民会館 会議室棟3階 大会議室
内容：1) ミニ講演会 『認知症の人の入院診療について』
千葉ろうさい病院認知症疾患医療センター長 小沢義典医師
2) 分科会 各プロジェクトに分かれて検討
3) 交流グループワーク 第3回いちほら認知症あんしんフェアについて
参加：40名

1) ミニ講演会 『認知症の人の入院診療について』

千葉ろうさい病院認知症疾患医療センター長 小沢義典医師

高齢入院患者の約3割にせん妄の症状が起きる。多くはベースに認知機能の低下があるが、認知症の診断がついていない場合もある。糖尿病の治療の過程で服薬方法が覚えられず、認知症に気付かれる場合もある。また、脱水はせん妄を引き起こす要因となる。せん妄は、過活動型せん妄、低活動型せん妄、混合型に分類され、予防、早期発見、早期解消が重要である。早期発見には、家族の「いつもと違う」という直感も重要である。千葉労災病院では、認知症ケアチームが全病棟を週1回回診し、チームと病棟スタッフでカンファレンスを開いて、認知症の入院患者さんの対応にあたっている。認知症患者さんの治療方針については、認知症の意思決定支援ガイドライン(厚労省平成30年6月)に沿って、患者さん本人の意思を第一に、チームで検討することが求められている。

2) プロジェクトに分かれて検討

- A 若年性認知症対策
- B 認知症サポーターの活動推進
- C 在宅介護者を支えるマニュアル作成
- D 服薬支援ネットワーク
- E 新規プロジェクト検討
- F フェスタ
- G RUN 伴
- H ステッカー

*検討内容は、各プロジェクト議事録参照

3) 交流グループワーク

第3回いちほら認知症あんしんフェア(H31年4月21日 ユニモチほら台)について

【事前の周知方法】

- ・駅、ユニモチほら台、医療機関、スーパー、公民館にポスター掲示。月間案内。ユニモの広告
- ・広報紙、シティーライフ(地域新聞)、ホームページ、SNS、Lineの利用
- ・ちほら台チャンネル、アイチャンネル、FM市原

- ・小中学生に分かりやすいリーフレット配布（認知症サポーター養成講座で）
- ・地域の通いの場で周知
- ・ケアマネから利用者に周知
- ・ユニモの入り口でビラを配る、ユニモのポイントを増やす、店内放送
- ・シニアリーダーや認知症サポーターに周知に協力してもらう
- ・「いちぽ」対象であることをPR

【当日の周知方法】

- ・ロボット、バルーンアート、うちわなど、子どもが関心をもつ小物を作ってもらい、店内を歩いてもらう。子どもが制作中は、大人が相談をしたり展示物を見られる
- ・ユニモちはら台の出入り口でリーフレット配布。呼び込み係（どんなことをやっているのか）
- ・店内に放送してもらう

【コーナー設置や装飾等】

- ・「いちぽ」を説明し、スタンプを押すコーナーが必要
- ・RUN 伴ののぼりを立てる。市認協ののぼりを作成する
- ・ロボットの塗り絵、小型ロボット、ロボのヨーヨー、うちわ
- ・高齢者疑似体験で買い物をする。車いす体験

【その他】

- ・バスの手配
- ・介護笑点の回答者→市役所職員、市議会議員、介護施設の施設長に出演依頼
- ・中高生にチーバくんやオッサくんに協力してもらう。市認協会員の家族、看護学生
- ・スタッフの区別ができるように。（スカーフ等）
- ・募金箱

4) その他

5) 今後の予定

- ・2019年4月21日（日） 第3回いちはら認知症あんしんフェア（ユニモちはら台）
- ・ 〃 7月25日（木） 総会・例会（市原市民会館）
- ・ 〃 10月24日（木） 例会